

# 糸満市少年の主張大会

学校だより

# 和

第 10 号

三 和 中 学 校

発行 與島 康仁



本校代表二名が堂々と発表

未来を生きる私たちのために  
三年 與那覇 恵鈴



皆さんはボランティア活動に参加したことがありますか。私はガールズスカウトに所属しており、そこでボランティア活動に参加することが度々あります。

「どれだけ清掃しても無駄なんじゃないか。」

目の前の砂浜には、車のタイヤ、お酒のビン、鉄パイプなど、本来そこにあるはずのない様々な種類の粗大ゴミ、雨が降りそうなじめじめとした空気の中、ほんの一時間で集まったゴミの量はゴミ袋十袋以上。もちろんその中身も、海辺にあるはずのものではなく、ビニール袋や飲み終わった紙パックの容器など、おそらくポイ捨てしたものでしょう。その種類と量の多さには衝撃を受けました。

同じころに、海ガメが海に

捨てられたビニール袋を間違えて食べて死んでしまったというニュースを観ました。私はいつも通りの日常を過ごしていましたが、ふと、もしかしたら、そのビニール袋はあの私が拾うことができなかったビニール袋かもしれない、と思いました。

私たち人間の日常から出たゴミのせいで命が失われてしまった。それはあってはいけないことです。

ガールズスカウトでは首里城の清掃活動にも参加しています。月に一回の清掃活動で、円環池の周りの落ち葉拾いや草刈りを行っています。正直、めんどくさいなとか、帰りたいな、などネガティブな気持ちで参加していました。誰がやっても同じことだし、この清掃活動にどんな意味があるのかとさえ思うこともありました。ですが、一昨年の十月、首里城正殿などが焼失してしまっただけです。教科書やニュース、ポスターでいつも目にしてきたあの風景。今まで当たり前のように日常の風景に溶け込んでいたものが突然、目の前から消えてしまった。

「私たちは、これまで築いてきた歴史と過去を失ってしまったんだ。」

漠然と、しかし、大きな衝撃を受けながら、そう思いました。首里城の清掃活動はそれから、私にも変わらなくなりましたが、私の気持ちには変化がありました。誰がやっても同じことだし、誰にでもできることです。ですが、今この瞬間に清掃活動に参加しているのはこの私で、私自身がこの清掃活動に興味を見出すべきなのだ、と考えるようになりました。

私はこれらの体験から学んだことがあります。

それはボランティアをすることでたくさん守れるのではないかとことです。ビーチクリーンをするのができます。物や自然を守ることができず。私たちは、海の生き物や動物、そして自然の力を借りて生きています。つまり、ビーチクリーンをするということは私たちの生活を守ることにもつながっています。

首里城の清掃活動はそれからも変わらなくなりますが、私

首里城の清掃も同じことだと考えます。これまで何度も焼失した首里城は沖縄戦でも焼失しました。ですが、その復興過程で琉球文化の素晴らしさや戦争の恐ろしさなど、私たちに様々なことを教えてくれました。

現代の私たちと同じように、未来の人たちも学ぶでしょう。つまり、環境や過去の歴史を守ることは未来に繋ぐということなのです。

私は、この学びを忘れず、ガールズスカウトのボランティア活動だけでなく、日常の生活の中でもできることをやってみよう

皆さんも地域のボランティア活動に参加したり、家の資源ごみもリサイクルできるものはリサイクルしたりして、できることから始めてみませんか。未来を生きる私たちのために。



優良賞を受賞した二名

